

8月に運転を再開した鹿児島県の九州電力川内原発1号機に続いて、同2号機が起動して臨界に達し、発電と送電の準備を進めています。21日には発電を開始する予定で、東京電力福島第1原発の事故後全国の原発が次々停止し、2年近くわたって「原発稼働ゼロ」になっていた状態から、2基の原発が再稼働することになります。川内原発の1、2号機が再稼働するといつても、福島原発のような重大事故を起さない保証もなく、事故の場合の避難体制も整っていないません。原発を再稼働させなくても電力は賄えているのに、無用な再稼働は危険です。

10/17 王強

主張

## 川内原発2号機

直前、経済産業省とのこの冬の電力の需給見通しを提出しました。号機を再稼働しなければ電力がえなくなるというのではありません。ん。1号機1基だけでも、他の力会社からの応援や融通なしで安定供給の図安となる、需要にべた供給の予備率3%を確保で

電力が賄はせぬ。電の運転を再開すれば、火力発電の燃料になる原油や石炭などの入や太陽光発電の買い入れなどを減らすことができ、電力会社のうけが増えるためです。実際、州電力は1号機の再稼働で9月の中間決算は5年ぶりの黒字になりました。

# 稼働ドミノを

無用な再稼働ドミノをやめよ

る見通しです。電力は貰えており、再稼働の根拠はありません。九州電力が8月に「鳥機を再稼働させた時も夏の電力は貰える見込みとされており、実際1号機の本格運転は9月になってからだったのに不足は起きました。電力は貰えていたのになぜ原発月期決算も黒字になると報道されています。事故を防ぐための費用や、万一事故が起きた場合の莫大な費用、住民の避難や賠償のたとの費用は全く念頭にありません。自らの経営最優先で、住民の安全が眼中には明らかです。

ではありません。反対に重大事故は起つうるとの前提で、さしあたりの対策を求めたものです。川内原発でも火山噴火への対策がないなど内容は不十分です。

しかも、事故は起つうるといいながら、肝心の住民の避難対策は規制委の審査の対象外です。川

川内原発は撤回され、停止中の原発はとめたまま「原発ゼロ」に進むことこそ、被災者と国民にこたえる道です。

直前、経済産業省はこの冬の電力需給見通しを提出しました。号機を再稼働しなければ電力が足りなくなるというのではありません。号機1基だけでも、他の火力会社からの応援や融通なしで安定供給の目安となる、需要にべた供給の予備率3%を確保で

電力が賄ふべきに比して、州電力は1号機の再稼働で9月中間決算は5年ぶりの黒字になりました。この運転を再開すれば、火力発電の燃料になる原油や石炭などの電気料金が減らすことができ、電力会社のうけが増えるためです。実際、州電力は1号機の再稼働で9月の中間決算は5年ぶりの黒字になりました。

九州電力の原発再稼働は、安倍晋三政権が原子力規制委員会によって新しい規制基準に適合すると判断された原発は再稼働させるとしているのを受けたものです。九州電力だけでなく、四国電力伊方原発3号機や関西電力高浜原発3、4号機などが再稼働を狙っていきます。しかし、規

内原発でも避難できない住民が出るといわれています。安全でもなく、避難対策もない原発再稼働は文字通り無謀の極みです。